

# 学校の現在と未来とを視野に入れた学校経営を！

群馬県小学校長会長 岡田 直久



「変化の激しい社会」といわれ、一体、どれくらいの年月が経っているのでしょうか？世界情勢や自然災害を挙げるまでもなく、誰も予想しえない出来事が起こり、状況が一変してしまうスピードが増しているように思います。学校教育を

見ても、世界や日本の情勢が変わるたびに「教育改革」が叫ばれ、学校現場は必死に対応を繰り返し、あらゆる面から余裕が無くなってきたように思います。

現行の学習指導要領が小学校で完全実施となって4年が経ちます。前文や総則などを読むと、10年サイクルで改訂される次期学習指導要領を見据えた学校教育の現状を捉えています。しかし、わずか4年の間にも、新型コロナウイルス感染症をはじめ、想定以上に状況が変化してしまった面も少なくないと感じます。それほど、時代の流れ、社会の変化の速度は増してきているのだと思います。

新型コロナウイルス感染症によって学校の教育活動が長らく制限され、学習指導要領の大きな柱である「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」など、思うように成果を上げることができなかった側面があります。一方で1人1台端末の配備とそれを活用した個別最適な学びや協働的な学びの環境は急速に整い、各校において実践を積み重ねることが可能となりました。地震や大雨の自然災害、異常高温による熱中症など、子供たちの健康や安全を守る取組もますます重要です。

さらに、教員の長時間労働や教員不足などの働き方改革も継続した大きな課題です。令和6年5月13日、中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」の審議まとめが貞廣齋子部会長から盛山正仁

文部科学大臣に手渡されました。審議まとめには、学校の働き方改革や教員の処遇改善策が盛り込まれ、教職調整額を現在の4%から10%以上とすることが大きく報道されました。一部教育学者や教育関係団体からは、様々な批判が寄せられています。ただ、審議まとめにおいては、教員の処遇改善だけではない多岐にわたる内容が盛り込まれており、ここに至るまでのスピード感とともに、国の危機感の高さと実行・実現への本気度を感じます。

私たち校長には、時代の流れや社会の変化が予測困難であったとしても、国の動向をしっかりと見据え、現在と未来とを視野に入れながら学校現場に具現化したり、教育行政に要望を出したりしていく責務があります。そして、子供と向き合う時間など職場における様々なゆとりを取り戻し、未来に向けて持続可能な学校教育を実現しなければなりません。

これらのことを実現するために、学校現場を預かる校長の羅針盤となるものが、群馬県教育委員会が設立した「教職員の多忙化解消に向けた協議会」による「提言R5」及び「提言R6」です。「廃止・縮小・ICT化」に取り組むべき業務例を基に、多くの学校で業務の縮減等を実現してきています。

しかし、これらの課題は一朝一夕に解決できるものではなく、国や県と連携しながら保護者や地域に理解を求めつつ継続して取り組んでいかなければならないものばかりです。教育委員会、学校、保護者・地域・関係団体、教育に携わるそれぞれの立場から総力を結集していかなければなりません。

群馬県小学校長会では、国や県との連携や情報提供、各地域の学校経営等の情報交換、調査研究や研修等を行っていきます。本会の存在と取組が、群馬県下295の小学校における、現在と未来とを視野に入れた学校経営に寄与することを願ってやみません。1年間お世話になります、どうぞよろしくお願ひいたします。